

オレゴン市の高校を見学

高校の授業を見学

オレゴン市を訪問して

齊藤 晴^{はる} 気^き

僕は3月19日〜26日に行われた、オレゴン市派遣事業に参加しました。そして、今まで経験したことのない貴重な経験をし、オレゴンの方々と交流を深めることができました。

今回は僕にとって初めての海外旅行でしたので、少なからず不安がありました。しかし、オレゴン市で異国の文化を学ぶことができるという期待が、とても強かったです。そんな期待と不安を胸に、19日の朝8時に役場前からアメリカへ向けて出発しました。

日付変更線を越え、乗り継ぎ地であるシアトルの空港につき、最初の難関が入国審査です。いかにも怖そうな人が、ぶっきらぼうな口調で質問していました。「教科書ごおりの質問だけだといいな。」と思いながら、いざ審査官の人の前に行くくと、なんとにも聴かれませんでした。とても拍子抜けしました。それから小型機に乗り継ぎ、オレゴンの空港へ向かいました。

僕達を温かく迎え入れてくれたホストファミリーは、ジェフさんとシャロンさんです。2人ともとても親切で、背が高かったです。その日のお昼は、家に向か

う途中でハンバーガーを食べました。あまりの大きさに、とてもびっくりしました。

2日目に行ったコロンビア渓谷や、4日目に行ったマウントフードでは、歴史やオレゴンの自然の雄大さを肌で感じることができました。

アメリカの学校も、訪問する機会がありました。小学校では、折り紙でツルを作りましたが、言葉で伝えるのは難しかったです。全員が完成させられたときの喜びは、とても大きかったです。また、夏休みやテレビアニメについても質問され、アメリカと日本との違いを感じ、お互いに沢山の知らなかったことを知ることができてよかったです。

他にもNHKを観たり、映画を観たりと、とても充実した旅となりました。

最後の日に、ホストファミリーや他の姉妹都市委員会の人たちと別れるのは、とてももつらかったです。そのとき僕は、「もう一度アメリカに来たい。そして、もっと勉強をして世界中の人と話せるようになりたい。」と思いました。

僕はこの旅で学んだ、伝えようとする気持ちが大切ということなどを、今後の



人工孵化養殖場の入口にはニジマスのモニュメント



人工孵化養殖場の説明案内板

学校生活や将来に生かし、世界で通じる国際人になりたいです。